

阿蘇山における地球化学的観測*

Geochemical observation at Aso Volcano

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター**
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

阿蘇火山では、2009年2月のごく小規模な噴火以降比較的静穏な状態が続いていたが、2011年4月中旬から火山性微動の振幅がやや増大し、5月15日以降はごく小規模な噴火が断続的に発生していた。

九州大学地震火山観測研究センターでは、垂玉温泉山口旅館本湯における温泉観測を、通常月に1回程度の頻度で実施している。観測源泉は中岳火口から、南西約5kmに位置しており、含硫黄-カルシウム-炭酸水素塩泉（硫化水素型）に分類される。

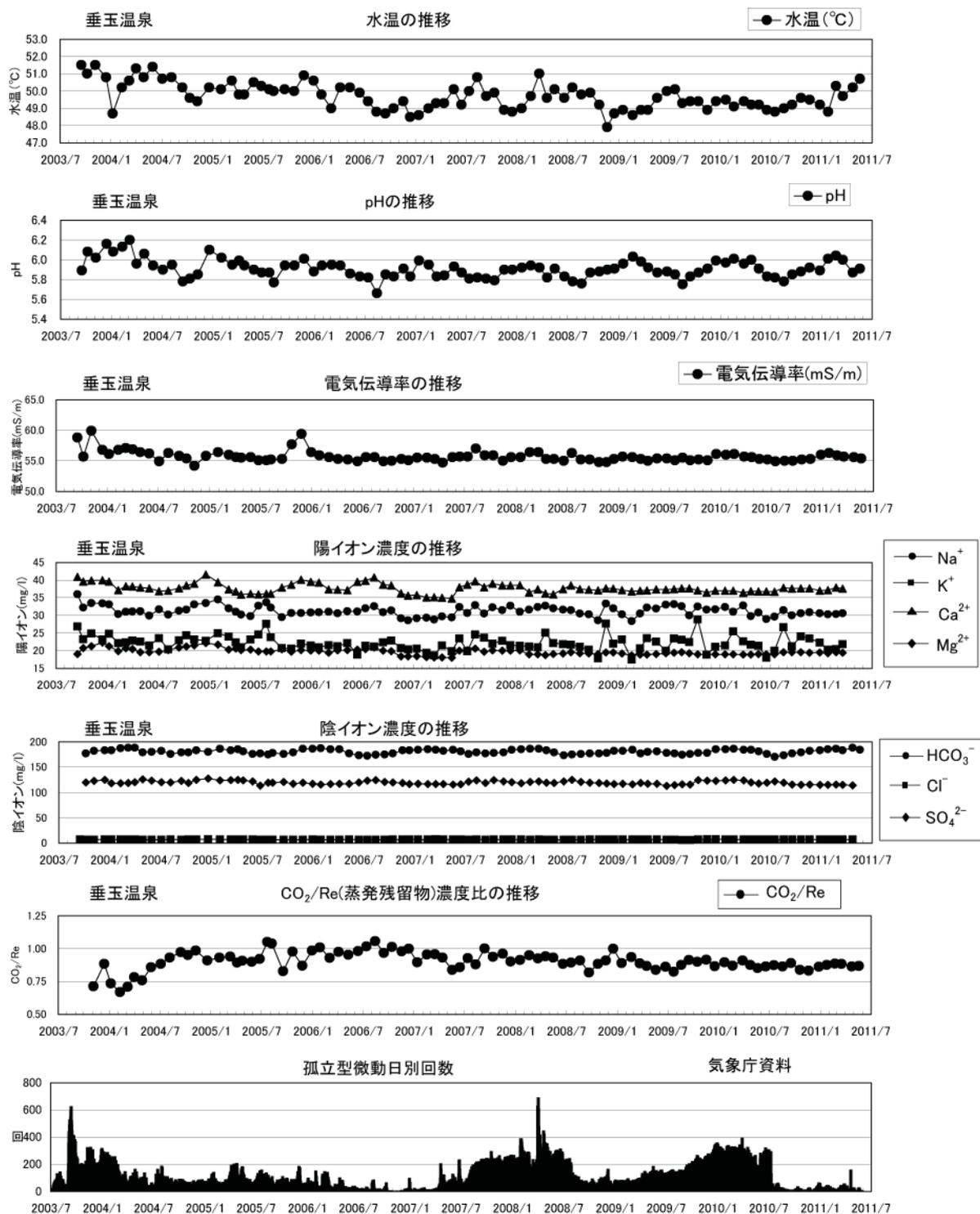
2003年9月以降の観測結果を、孤立型微動日別回数（気象庁資料）とともに第1図に示す。孤立型微動は、2010年7月中旬頃から減少に転じ、少ない状態で経過している（2011年5月末現在）。

垂玉温泉の泉温は、ゆるやかな低下傾向を示していたが、2011年2月頃から上昇傾向に転じ、約2°Cの上昇を観測した。

2006年3月頃から南阿蘇村吉岡において、やや活発な噴気活動が続いているが、その約1.3km南方に位置する垂玉温泉の色（無色透明）・主要陰イオン濃度等には、有意な変化は見られない。

主要化学成分等には、気象の影響などによる若干の変動が見られるだけで、顕著な変化はなく安定して推移している。溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度/蒸発残留物濃度）にも、火山活動に起因すると思われる顕著な変動はない。

*2011年7月18日受付



第1図 垂玉温泉山口旅館（本湯）の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn (Motoyu) of the Tarutama hot-spring. Daily number of the isolated tremor is from the JMA.